

日本醸造学会誌投稿規程

(令和2年1月1日実施)

【総則】

1. 日本醸造学会は、「醸造に関する学術研究の向上を図ること」を目的としており、日本醸造学会誌は、この目的をふまえた醸造学分野の原著論文を掲載する。論文の内容は、学術的な価値のあるオリジナルなものでなければならない。
2. 論文の用語は、邦文とする。
3. 投稿者は、日本醸造学会通常会員に限る。但し、共同研究者はこの限りでない。
4. 掲載論文の著作権は、日本醸造学会に属する。また、その原稿は著者に返却しない。

【論文の種類】

5. 論文は、研究論文及びノートの2種類とし、いずれも他誌に未発表のものに限る。但し、学会等の講演要旨、会議事録などとして発表された内容についてはこの限りでない。
6. 研究論文は、独創的な研究で、それ自体独立して価値ある結論或いは事実が得られたものとする。
7. ノートは、限られた部分の発見や新しい実験方法等、研究論文としては完結しがたいが報告する価値のあるものとする。
8. 論文の1編の長さは、研究論文では引用文献、図表を含めて印刷面6ページ(約12,000字)以内、ノートでは同じく印刷面3ページ(約6,000字)以内とする。

【投稿】

9. 原稿は、本規程及び日本醸造学会誌投稿原稿執筆要領にしたがって作成し editor@jozo.or.jp へてに電子メールで送付する。
10. 電子メールによる投稿ができない場合は、〒114-0023 東京都北区滝野川 2-6-30 日本醸造学会編集部へてに正原稿1部、副原稿2部(鮮明なコピーで可)に原稿送り状(執筆要領参照)を添えて送付する。
11. 上記送付先に到着した日をもって受理日とする。なお、原稿に不備がある場合には、受理しないことがある。

【審査】

12. 投稿論文の採否は、編集委員会が決定する。
その際、編集委員会は、当該論文の研究領域に応じて、2名或いはそれ以上の専門家に論文の価値判断を依頼し、その査読の結果を尊重して決定を行う。
13. 編集委員会は、上記専門家の所見に基づき、論文の内容・字句などについて訂正或いは疑義の解明を求められることができる。この場合、著者はその指摘に対し、それぞれ訂正或いは説明を付して、原稿と共に速やかに編集部宛返送しなければならない。
14. 前項に関し、特別の理由もなく返送に6週間以上を要したとき、或いは返送された原稿の内容が著しく変更されているときは、新規論文として取扱い、返送原稿到着日をもって新しい受理日とする。

【校正】

15. 校正は、原則として初校に限り著者が行い、指定された期日までに返送する。
16. 校正にあたっては、単なる誤植などの訂正に止める。文章の改訂、内容の加除変更は認めない。
17. 印刷後に重大な誤りを見出したときには、その旨編集部に申し出るとともに、訂正原稿を提出する。編集委員会が訂正を妥当と認めたとときには、本学会誌に掲載される。

【費用負担】

18. 掲載論文の別刷は、著者に対し別に定める料金が頒布する。

附 則

この規程は平成20年1月1日改正

この規程は平成30年1月1日改正

この規程は令和2年1月1日改正

日本醸造学会誌投稿原稿執筆要領

(令和2年1月1日実施)

1. 日本醸造学会誌に投稿しようとする論文の原稿は、この執筆要領に従って作成する。
2. 原稿の作成は、マイクロソフトワードなどのワードプロセッサソフトウェアを利用する。A4版、縦置、文字12ポイント、行間1.5行、余白2cm以上で作成し、ページ番号及び行番号をつける。

3. 以下を1つのPDFファイルにまとめて電子メールの添付ファイルとして投稿する。

標題(日本語)、著者名・所属(日本語)、標題(英語)、著者名・所属機関名(英語)、抄録(英語)、キーワード(日本語及び英語)、責任著者のメールアドレス、本文(緒言、実験方法、結果、考察、要約、謝辞、参考文献)、表(1ページに1つの表)、図(1ページに1つの図、説明を含む)

ノートは、研究報文に準じて作成する。

4. 電子メール本文に、原稿送り状(氏名・所属、電話番号、メールアドレス、原稿枚数、別刷希望部数、備考)の情報を記載する。
5. 標題は、論文の内容を具体的かつ的確に表現し、しかも不要の文字(例…に関する研究)を省いた出来るだけ簡潔なものとする。なお、標題中にキーワードが含まれるよう配慮する。

シリーズ番号を付ける場合は、副題の形式とし、脚注に記載する。

6. 著者名は、姓・名を略さずに記載する。責任著者の右肩には*を付ける。脚注に、責任著者のメールアドレスが記載される。
7. 著者の所属機関は、当該研究の行われた機関とし、その正式名称を記載する。また、所属機関の所在地を、郵便番号、番地等を省略せずに付記する。

研究を行った後に所属機関が変わった場合には、脚注に現在の所属を記載する。

8. 標題、著者名、著者の所属機関名等には、英文を付記する。著者名は、ローマ字で、姓は文字のすべてと名の頭文字を大文字で記載する。
9. 抄録は、本文を読まなくても内容の要点が理解できるものとし、英文で、改行をせずに、研究報文の場合は200語、ノートの場合は100語以内で作成する。なお、参考までに、和訳を添付する。

10. キーワードは、論文内容を代表する単語とし、5個以内(日本語及び英語を併記する)を主として標題及び抄録から抽出する。

11. 研究報文の本文は、緒言、実験方法、実験結果、考察、要約の順に作成する。

学術論文であるから、論理的かつ明確な構想に基づいて記述されていること、その研究を行った理由、既往の研究との関連性も明示されていること、使用した方法・実験手法、または実験技術は専門研究者が読んで追試し得るように記述されていることなどが要求される。

また、読者にとって読みやすいよう、記述の重複を避け、①・②を利用して箇条書きにするなど簡潔明瞭な文章の作成にも留意する。

12. 図・表

(1) 図はパワーポイントなどの作画ソフトウェアを用いて作成する。表はワードプロセッサソフトウェア等の機能を用いて作成する。写真も図とする。

(2) 本文中では、図はFig.1、表はTable2などと記し、原稿では使用箇所の近傍に挿入位置を指定する。

(3) 図・表は一つごとに別紙とし、図はそのまま使用できるように、鮮明なものとする。

(4) 図のキャプション(見出し及び説明)・表は、本文を読まなくとも理解できるように、英文で作成する。

図・表のキャプションは当該図表と同一ページに付ける。

13. 参考文献

(1) 本文中では引用順に著者名又は事項を示す用語の肩に1, 2)のように番号を付し、それらの出典をまとめて参考文献、または文献の項に番号順に列記する。

本文中での著者名は、原則として姓のみとし、2名のときは両者、3名以上のときは第1著者以外を「他」または「ら」と略記する。

(2) 文献は、番号、著者名(全員について姓名とも)、雑誌名(略記で可)、本誌の場合は「醸協」(書名)、巻、ページ、(成書の場合は、発行所、発行都市名)、発行年の順に記す。

雑誌名は邦文の場合は科学技術文献速報、欧文の場合はChemical Abstractsで使われている略語を用いる。

なお、著者名と雑誌名の間にはコロンを置くほかはカンマで区切り、ページは、最初と最後を短いハイフンでつないで記載し、発行年は丸括弧で括る。また、欧文雑誌名はイタリックに、巻はボールドに字体指定する。

14. 用語・用字・記号等

(1) 常用漢字の使用が基本であるが、醸造特殊用語の味噌、醤油、焼酎、麴、醗、酎、咧酒等、及び澱粉、蛋白質、醗酵等は使用できる。

(2) 生物の学名は、イタリックに字体指定する。

(3) 数字は、アラビア数字を用いる。

(4) 字体の指定は、使用するソフトウェアの機能を用いて行う。

(記載例)

- 1) 鈴木康司, 飯島和丸, 坂本幹太, 佐見学, 山下博: 醸協, 101, (2), 94-103 (2006)
- 2) Y. Saito, K. Wanezaki, A. Kawato and S. Imayasu: Biosci. Biotech. Biochem., 58, 812-816 (1994)
- 3) 注解編集委員会編, 第四回改正国税庁所定分析法注解 (財団法人日本醸造協会, 東京), 211-228 (1996)
- 4) J.Priewé: Wine, from Grape to Glass (Abbeville Press Publishers, New York), 62-63 (1999)
- (5) 計量単位は国際単位系 (SI) を基本とするが, リットル等慣用されている単位系も使用してよい。

単位記号は, 常用のものを用いる (別表参照)。

(6) 物質名, 生物の学名は, 本文中初出のときには略さずに記載し, 略号を使用する場合はそれに続いて括弧書きで示す。

常用的に使われる物質名その他の用語のうち, 極めて使用頻度が高く, かつ, 国際的に共通の略号で使い方が統一されているものは, 説明なしにその略号を使用できる (別表参照)。

(7) ギリシャ文字など間違いやすい文字や数字には, 誤植を防ぐため余白に指示をつける。

【別表 記号・略号の例】

単位記号

長さ	nm, μm, mm, cm, m	時間	s, min, h, d, wk, mo, yr
面積	mm ² , cm ² , m ²	物質質量	μmol, mmol, mol
体積	μl, ml, l, kl (μL, mL, L, kL ともよい。), cm ³	濃度	μM, mM, M
重さ	μg, mg, g, kg, ton	〃	N, %, g/100 ml (g/100 mL ともよい。), ppm, ppb, pH
		温度・熱量	°C, J, kJ, cal, kcal

物質名略号

アミノ酸残基 (一文字略号は蛋白質の一次構造に限って使用できる)

Glycine	Gly(G)	Tryptophan	Trp(W)
Alanine	Ala(A)	Proline	Pro(P)
Valine	Val(V)	Hydroxyproline	Hyp
Leucine	Leu(L)	Aspartic acid	Asp(D)
Isoleucine	Ile(I)	Glutamic acid	Glu(E)
Norvaline	Nva	Pyroglutamic acid	Glp
Norleucine	Nle	Asparagine	Asn(N)
Serine	Ser(S)	Glutamine	Gln(Q)
Threonine	Thr(T)	Lysine	Lys(K)
Cysteine	Cys(C)	Arginine	Arg(R)
Methionine	Met(M)	Histidine	His(H)
Phenylalanine	Phe(F)	Ornithine	Orn
Tyrosine	Tyr(Y)	Citrulline	Cit

糖残基

Arabinose	Ara	Ribose	Rib
Xylose	Xyl	Maltose	Mal
Fructose	Fru	Sucrose	Suc
Galactose	Gal	Glucosamine	GlcN
Glucose	Glc	N-Acetylglucosamine	GlcNAc
Mannose	Man		

核酸関連物質

Deoxyribonucleic acid	DNA	Adenosine 5'-triphosphate	
Complementary DNA	cDNA(cRNA)		ATP(AMP, ADP)
Mitochondrial DNA	mtDNA(mtRNA)	Adenosine triphosphatase	

Nuclear DNA	nDNA (nRNA)		ATPase
Ribonucleic acid	RNA	Cyclic AMP	cAMP
Messenger RNA	mRNA	Flavin-adenine denucleotide	
Ribosomal RNA	rRNA		FAD (FADH ₂)
Transfer RNA	tRNA	Nicotineamide-adenine dinucleotid	NAD (NAD ⁺ , NADH)
.....			
その他			
Acetyl coenzyme A	CoASAc	Sodium dodecyl sulfate	SDS
O-(Carboxymethyl) Cellulose	CM-cellulose	Tris(hydroxymethy) aminomethane	Tris
O-(diethylaminoethyl) Cellulose	DEAE-cellulose	Polymerase chain reaction	PCR
Ethylenediaminetetraacetate	EDTA		
.....			
その他の略号			
Gas chromatography-mass spectrometry	GC-MS	Michaelis constant	K_m
Gas liquid chromatography	GLC	Inhibition constant	K_i
High performance liquid chromatography	HPLC	Dissociation constant	K_d
Thin layer chromatography	TLC	Molecular weight	M_r
Polyacrylamide gel electrophoresis	PAGE	Boiling point	bp
Nuclear magnetic resonance	NMR	Melting point	mp
Infrared	IR	Isoelectric point	pI
Ultraviolet	UV	Rate of flow (Retardation factor)	R_f
		Retention time	t_R
		Revolution per minute	rpm
		Biological oxygen demand	BOD
		Chemical oxygen demand	COD
		Dissolved oxygen	DO